

困ったときの2の手, 3の手 今こそ知りたい 漢方・鍼灸



2023年, 2つ目, 3つ目のオプションを手に入れる

医療者が、東洋医学に魅力を感じる要因の1つは、自分や家族に、漢方薬や鍼灸を試して、奏効した経験があるからではないでしょうか。私も、緊急性がありそうな症状の場合は例外として、自分や家族で体調不良があれば、まず試そうと思うのは、西洋薬よりは漢方や鍼灸です。鍼灸については共同編集の寺澤先生に譲りますが、漢方薬については、呼吸器症状や頭痛、不眠、歯科処置後の疼痛など、服用してぴたりと合ったときの、その即効性に驚いた経験も少なくありません。

今回の特集を読んで、読者の皆さん自身や家族、そして目の前の患者さんの諸症状に、困ったときの2の手, 3の手として、漢方薬を試してみようと思えるきっかけになれば幸いです。

〔編集幹事〕給田ファミリークリニック

櫻尾明彦

皆さんは最近、鍼灸が注目され初めていることをご存知でしょうか？

私は、医師以外に、はり師・きゅう師の国家資格を有し、自称：医はき師として、鍼灸の啓発を行うなかで、医師から鍼灸への注目度が高まっていると感じています。PubMedにて“acupuncture (鍼)”のキーワードで1年あたりの論文数を検索してみると、2000年ではわずか331ヒットでしたが、その後上昇傾向で2021年には約10倍の3,096ヒットします。一方で、各大学病院内などで鍼灸治療が行われていたり、医学部教育にも鍼灸が取り入れられたりと、医学部生の時から鍼灸に触れ合う機会も増えてきているようです。

読者のなかには、これまで鍼灸と疎遠であった方や、学びたくてもリソースがみつからなかった先生方も多くいらっしゃると思います。今回の特集では、鍼灸を学び始めるのに最適な構成になるよう心がけました。本特集をきっかけに、鍼灸を正しく理解し、かわりを増やしてみてください。

〔編集幹事〕医療法人弘池会 口之津病院 内科・総合診療科

寺澤佳洋